

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600376		
法人名	医療法人社団 玄洋会		
事業所名	グループホーム「和花」Aユニット		
所在地	北海道白老郡白老町東町2丁目4番12号		
自己評価作成日	令和3年12月13日	評価結果市町村受理日	令和4年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600376-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和3年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入浴や買い物など、様々な希望に対して速やかに対応し、利用者様一人ひとりがご自分のペースで生活ができるように取り組んでいる。外食にも対応していたが、コロナの影響で控えている。代わりに近隣のお店から出前を頼んだり、お弁当を頼んで利用者様の食べたい物、好きな物が食べられるようにしている。また、趣味や経験を活かした生活ができるよう、絵手紙教室の先生に毎月来ていただいたり、他部署と連携しながら畑を作り、畑仕事が好きな利用者様と一緒に作業が行えるようにしている。外部のボランティア等が呼べない代わりに、お祭などの行事も他部署と連携しながら行っている。すべての居室にトイレが設置されており、夜間のトイレ通いがスムーズに行えるようになっている。居室にトイレがあることで安心感が生まれ、安眠できる効果もある。複合施設なので、他部署との連携だけでなく、1階には機能訓練室があり、充実した機能訓練が行えるようになっている。また専門職による音楽療法を実施。コロナの影響で面会の制限があるので、ご家族様には利用者様の日常生活が少しでもわかるように、近況報告だけでなく、写真も一緒に送付している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR白老駅や昨年開業のウポポイ(民族共生象徴空間)に近く、スーパーや商店が立ち並び幹線道路沿いに位置し生活環境に恵まれている。運営法人は道央佐藤病院を主軸に幅広い医療・福祉のネットワークを構築し多種の医療・福祉事業所を展開している。当施設は鉄筋コンクリート5階建てで、グループホーム(2階部分)、デイサービス、介護付き有料老人ホーム、居宅介護支援事業所と共に高齢者複合施設として、各事業所と連携し利用者の生活の幅を広げる支援を行っている。施設全体での機能訓練は感染対策により見送られているが、週1回の音楽療法や毎月の絵手紙教室、畑作業などを他事業所と連携し利用者の生活への意欲や楽しみとして、作業療法的要素を交えた心身の活性化への取り組みとなっている。広大な敷地内に樹木や庭園など自然と触れ合える環境を整備し、コロナ禍にあっても戸外で過ごす事ができている。広く明るい共用空間では毎日のラジオ体操や利用者個々の趣味、カルタやトランプなどを行い、季節や日本古来の行事、職員のアイデアを取り入れた食事も工夫して提供している。協力医療機関への送迎はスタッフがその都度配置されているのも特徴で、家族・利用者の負担軽減となっている。利用者其々の思いに寄り添い可能な限り利用者の自由な暮らしを支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた基本理念をもとに、毎朝復唱し、職員が共通意識を持ち、ケアに取り組んでいる。	理念を事業所内へ掲示しパンフレットに記載して、毎朝介護の心得と共に唱和して職員の意識づけを深めて実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で、地域交流はできなくなったが、たまに地域のお店からお弁当を頼み、地域と交流する機会を作っている。	以前は小学校の運動会や町の八幡神社祭りに出かけたり総合施設祭に中学校吹奏楽部が来て交流していた。現在はコロナ禍により地域の商店に買い物に行く程度に留まっている。緩和状況が進んだ折には以前のつきあいを再開する事としている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談窓口を設け、いつでも見学等が出来るようになっている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様、ご家族様、包括の方たちの意見や他施設での取り組みなどの話し合いを行い、サービスの向上に活かしている。	今年6月のから2か月に1回参集での会議を再開している。地域包括支援センター、町内会長、民生委員、家族、利用者等が参加して、利用者の状況、事故、ヒヤリハット、行事や研修報告等を行い、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。会議録を全家族に送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席依頼や、町が開催している、認知症の人たちの家族の集いにも参加している。	町の高齢者介護課担当者から感染症対策に係る情報を得たり、町の総合福祉センター(いきいき46)とは認定調査等で協働している。施設長が「認知症の人と家族などの会」に参加し事業所資源を還元するなどの福祉推進に努めて協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人職員へのオリエンテーションや内部研修を行い、身体拘束に対して正しい知識を身につけるようにしている。	身体拘束廃止委員会を定期に開催し、身体拘束に係る状況と適否について利用者個別に検討を行っている。内部研修はオンデマンドを活用し実施している。身体拘束ゼロへの手引き、スピーチロック、認知行動療法における方法論などの研修をしている。玄関の施錠は防犯のため夜間帯のみである。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人職員へのオリエンテーションや内外研修を行い、虐待に対して正しい知識を身につけるようにしている。			

グループホーム和花 Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、家族から相談を受けた際に、支援できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容の変更や改定があった際には、必ず説明をし、署名捺印をもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加していただき、意見等反映するようにしている。	日常の会話などから利用者の意見・要望の把握に努め、家族とは運営推進会議参加時、「和花便り」や行事後に近況の手紙と写真を送付して様子を伝え、電話や面会時など家族と接する機会に要望を聞いて運営に反映させている。利用者からは買い物や散歩、お菓子や行事のリクエストなどの希望が寄せられその都度検討し対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	和花ミーティング行い、意見交換を行っている。業務の中でも話をするようにしている。	管理者は、職員が意見を言いやすい雰囲気を日頃から作り、職員とのミーティングを行って、行事や業務提案を受け一緒に話し合いながら調整している。年に1～2回人事考課に伴う職員との個別面談を実施して意見や提案を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や法人内の自己評価、キャリアパス研修の実施、資格取得による給料アップなど行い、向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス研修、内外部研修などに参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で交流はできていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に面談を行い、本人の意向や想いを伺い、安心していただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に面談を行い、家族の意向や想いを伺い、安心していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を確認するとともに、関係機関からの情報提供も含め、必要としている支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人に合った生活リズムが作れるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡をした際に、日常生活の様子を伝えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院や、近所のお店に買い物に行くようにしている。	コロナ禍以前は一緒に民謡を楽しんでいた仲間が訪れたり知人の来訪があった。家族との面会は状況を鑑みつつ窓越し面会や感染対策を講じ条件付で1階ホールで家族との面会が可能となっている。買い物や車で自宅や旧家を見に行く機会を設けるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間だけでなく、余暇時間にトランプや花札、かるたなどをして交流できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者様のご家族と、町が開催している認知症の人たちの家族の集いで会う機会があるので、現在の様子を確認している。これからも相談や支援に努めていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族から聞き取りを行い、また日常生活の言動から、把握するようにしている。困難な場合はサービス担当者会議などで検討している。	利用開始時に家族や利用者から趣味や嗜好、生活歴の情報を得て生活の中で本人本位に検討している。言葉の表出が可能な利用者が多く日々の会話、表情、家族の情報などから希望や意向を把握している。困難な場合には表情や仕草、申し送りなどで情報共有し、担当者会議などで本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聞き取りを行い、日常生活の様子などから聞いたことや、本人の様子などを記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、趣味などを本人、家族から聞き取りしてアセスメントを作成。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的実施。都度、話し合い介護計画を作成している。	利用者、家族の意向を反映させ、サービス担当者会議でモニタリングし現状に即した介護計画を作成して家族の確認を得ている。科学的介護推進体制実施に伴い作業療法士が加わった分析を進め、フェイスシートやアセスメントシートの改変に取り組んでいる。	フェイスシート、アセスメント、モニタリング、計画が一つの纏まりとして時系列でファイル化する事で、新たな計画への根拠や比較として職員誰もが確認しやすくなる。課題ともなっているケアマネジメントの一連の書類整備に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の様子やケアの実施を記入している。生活記録やアセスメントを活用し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況や意向に合わせ、グループホームだけでなく、他部署と連携してサービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療や娯楽に関する地域との連携はとれている。月1回の絵手紙教室の先生に来ていただき、他部署の入居者様と一緒に、趣味が継続して行える環境を作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠くへの病院へは家族に協力していただき、行き慣れた病院へ通えるようにしている。主治医の変更等希望があれば対応している。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるように支援している。協力医療機関の体制を説明した上でかかりつけ医を相談し決定している。協力医療機関への受診は送迎付で病院受診スタッフが同行している。週1回の訪問看護や歯科の必要時の往診体制がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、訪問看護師が来て連携をとっている。状態の変化があれば部署の看護師や、かかりつけの病院へ連絡、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報交換や相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明しており、本人の状態が悪化した場合には都度、家族と相談している。	入居契約時に「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を説明し同意を得ている。重度化が認められた場合は、主治医の判断や意見を受け、家族と今後の方針を話し合い希望に添えるよう支援している。話し合いの結果は相談記録に記している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルの設置。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。	令和1年12月地震・火災想定(日中)での避難訓練以降、コロナ禍により実践的な訓練は見送っている。令和2年6月に災害図上訓練DIGと今年は防火対策自主検査、エマージェンシーコール参集模擬訓練を実施した。自家発電機を含め災害備蓄品を確保している。	自然災害の種別や災害規模により垂直避難にて事業所内に留まる事が想定される。実践的避難訓練実施が2年ほど難しい状況であった。車椅子使用者の階上・階下の避難誘導対策の強化と実践的な避難訓練の実施を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室対応のため、プライバシーの確保はできている。また、トイレの声かけは周囲に聞こえないように配慮している。	法人新人研修などで接遇や認知症の理解など個々に沿った研修を行っている。介助など利用者に関わっている時に職員が一時的になっていないか、言葉かけはどうか、管理者は適宜指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との会話や、声をかけた際の表情や反応で、何を望んでいるのか把握し、本人が決めるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り希望通りのことが行えるようにしている。そして日々の生活で自分の役割を持つようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をする、好きな服を選び着られるようにしている。		

グループホーム和花 Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いなものには別メニューで提供。入居者様とのメニュー作りも行っている。食事の準備や片付けなども一緒に行っている。	法人の栄養士に適宜チェックを得た献立で提供し、主食と主となる副食は調理し、付け合わせ副食は加工品を利用することもある。利用者は能力に合わせて食事の準備、片付けなどを行っている。外食に代わりグルメツアールと称し食卓を賑わし、秋の味覚祭ではおかず盛り沢山の出前を取り食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分制限、水分制限がある方へは個別で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時だけでなく、毎食後は入居者様全員が口腔ケアを行えるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合った排泄ケアが行えるように、生活記録に排泄状況を記録している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩などで体を動かす、家族に相談して乳製品の購入などで協力していただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず、本人の希望にそって入浴できるようにしている。	風呂は天然温泉で、午前・午後の時間帯はユニット毎に隔週で入れ替え、希望に添って入浴できる。湯船の入り方や洗身は本人の習慣に合わせて、同性介助にも配慮している。自立度が高い仲の良い利用者同士と一緒に入浴を楽しむ事がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決められた消灯時間ではなく、個々のペースで休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個人ファイルに入れており、いつでも確認できるようにしている。薬の変更等があれば都度、周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物、お裁縫など好きなこととおこなえるようにしている。お酒の好きな入居者様には寝る前にお酒の提供をしている。		

グループホーム和花 Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外食は控えているが、買い物や炊事事ができるようにしている。	春には隣接の公園へ桜を見に出かけたり、敷地内の炊事事で外気に触れたり、池の鯉の餌やり、秋には栗拾いを行うなど周辺環境を最大限活かし感染防止対策を講じつつ、戸外で過ごしている。緊急事態宣言解除後は、スーパーやホームセンターへ必要な品々を買いに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望があれば、出来る限り本人に管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフルームの電話はいつでも使用できる。毎日、ご家族と電話で話されている入居者様もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床は全面バリアフリーになっており、浴室、居間、トイレには手すりが設置。温度と湿度は毎朝チェックし、調整している。季節ごとにクリスマスツリーや鏡餅、お雛様だけでなく、壁にも入居者様が作った作品を飾り、季節感を取り入れている。	共用空間は広くて明るく、利用者の作品や季節毎に飾り付けを工夫し、季節を感じるお雛様などを飾り、エアコン、加湿器で空調を管理し快適に過ごせるようにしている。窓からは自然の景色や四季の移ろいを感じる事ができ、リビングから屋上庭園へ出入り可能である。テーブルや椅子の配置は利用者の動線に配慮し、利用者同士話しがし易いよう席替えを行っている。時折静かなBGMを流し雰囲気作りを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は自由に行き来できるので、みんなと居間で過ごす、ひとりで居室で過ごすのは入居者様本人の意思に任せている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ち込んでいただき、居心地のいい空間を作る工夫をしている。	トイレ、洗面所、エアコンが備え付けられている。馴染みの家具や調度品、大切な品々を持ち込み、壁にはサークル活動の作品や家族からの手紙、写真を飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。職員は利用者の意向や身体状況に応じサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は全面バリアフリー。居間、トイレ、浴室には手すりを設置している。		